

楽しく学べる選択英語学習指導の工夫

～サイドリーダーの活用を通して～

嘉敬中学校教諭 伊禮聡

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究仮説	1
IV	研究の全体構想図	2
V	研究内容	3
1	新教育課程での英語	3
2	選択科目について	3
3	選択教科英語における学習活動	4
4	英語の苦手な生徒たち	5
5	インプット理論について	7
(1)	インプット理論	8
(2)	情意フィルター仮説	8
VI	実践事例	11・17
1	題材名	11
2	題材設定の理由	11
3	本時の目標	12
4	指導計画	12
5	準備	12
6	本時の展開	13
7	評価	14
8	授業の反省と分析	18
VII	成果と課題	19
1	研究の成果	19
2	今後の課題	20
おわりに		20
	<主な引用文献・参考文献>	20

楽しく学べる選択英語学習指導の工夫

～サイドリーダーの活用を通して～

宜野湾市立嘉数中学校 教諭 伊禮 聡

I テーマ設定理由

21世紀の社会は情報化、国際化など、激しく変化を続けている。その変化のスピードは、私たちの想像を悠に超えるものである。そのなかで、日本の教育界も、大きな転換期をむかえ、平成14年度から新学習指導要領が完全実施となった。今回の改訂では、「生きる力」を育て、「ゆとり」のなかで、考える力などを養うことを大きなねらいとして掲げている。学校週5日制の完全実施、「総合的な学習の時間」の導入などにより、各教科の授業時数は削減された。外国語科では、三つの大きな改善が図られた。一つ目に、外国語の学習を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と、視野を広げ異文化を理解し、尊重する態度の育成を図ること、二つ目に、実践的コミュニケーション能力の育成を図ること、三つめに、中学校及び、高等学校の外国語科が必修科目となったことである。さらに、中学校では原則として、英語を履修することとなった。

また、選択学習の時間枠は拡大され、生徒自身が自ら選択した科目を主体的に学習できるような時間がこれまでよりも増えることになった。このことは、おかげさなれば、これからの日本の英語教育において、大きな意味を持つことになる。これまで、ともすれば学校での毎日の学習が、ほとんど受動的で、退屈になりがちだったかもしれない子ども達が、目を輝かせて、胸をときめかせて、いきいきと勉学すること

ができるようになる。

選択学習は、学習内容を教科書に限定されることなく、子供たちの興味関心のあるトピックを自ら選び、学ぶことができるようになった。この選択教科が一つのきっかけとなり、知的好奇心をくすぐり、子供たちの「生きる力」を開く大きな一歩となるのである。生徒が英語の学習活動を楽しみ、学ぶ喜びを味わってほしいと願い、今回、サイドリーダーを活用した英語の選択学習の指導を工夫することによって生徒の英語に親しむことができるようになると考え本テーマを設定した。

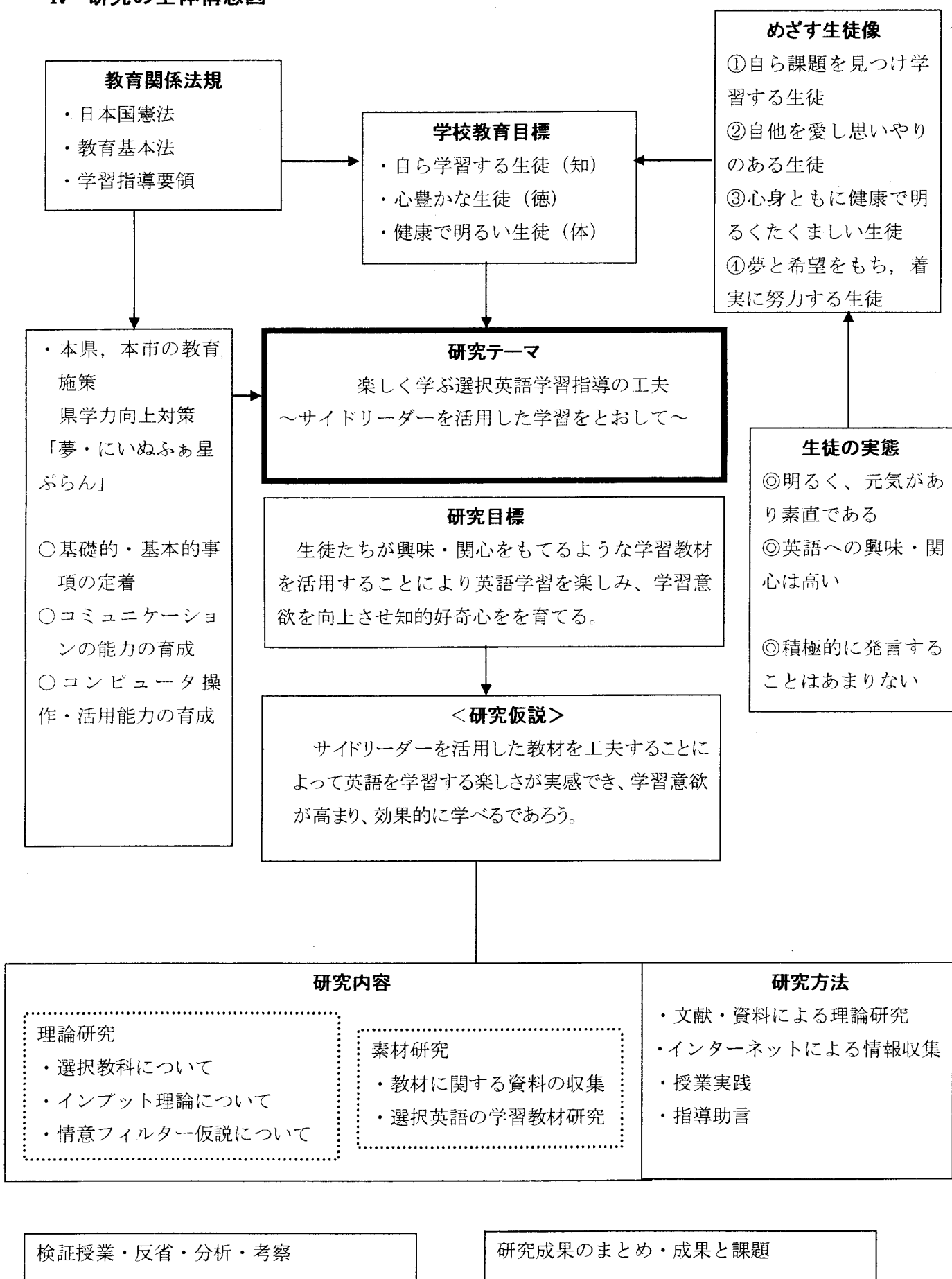
II 研究目標

生徒が興味、関心をもてるような学習教材を活用することにより英語学習を楽しみ、学習意欲を向上させ、知的好奇心を育てる。

III 研究仮説

サイドリーダーを活用した教材を工夫することによって英語を学習する楽しさが実感でき、学習意欲が高まり効果的に学べるであろう。

IV 研究の全体構想図



V 研究内容

1. 新教育課程での英語

今回の改訂の、基本方針として、以下の三つが示されている。まず一つ目は、外国語の学習を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と、視野を広げ異文化を理解し尊重する態度の育成を図ること、二つ目に、実践的コミュニケーション能力の育成を図ることをねらい、言語の実際の使用場面に気を配っていること、三つ目に、中学校と高等学校で外国語は必修教科となり中学校では、外国語のなかでも、英語を履修することが原則となったことである。

具体的には、1年生から3年生まで、英語の時数は105時間となっている。また、英語は、1年生から3年生まで選択できる。2年生、3年生は、70時間まで英語を選択することができるようになり、言語材料や目標、言語活動をひとまとまりで表記し、これらを用いて、言語活動が展開しやすくなっている。また、家庭や学校、その他、日常生活のいろいろなシチュエーションでの言語活動を示している。

相槌や聞き返し、慣用表現、「語と語の連結による音変化」の指導なども重視されている。それによって、選択としての外国語の内容が示された。

2. 選択科目について

選択科目については、学校教育法施行規則第53条で「中学校の教育課程は必修教科、選択教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間によって編成されている。」と示されている。そこで選択科目について触れてみたい。まず、小学校と中学

校の教育課程の大きな違いの一つとして「選択科目」があげられる。この科目は、ある意味では、非常にユニークな科目であるといえる。第53条第3項において、「選択教科は、国語等の各教科及び第54条の2に規定する中学校学習指導要領で定めるその他特に必要な教科とし、これらのうちから、地域及び学校の実態並びに生徒の特性その他の事情を考慮して設けるものとする。」と示されている。つまり、選択教科は、必修教科とは異なり、生徒一人一人が興味・関心のある科目を選択し、個性を伸ばし、自分の意思で主体性をもって学習できるようにすることを目指しているのである。

次にその内容として、以下の三つが示されている。一つが課題学習であり、二つ目が補充的な学習や発展的な学習、三つ目が生徒の特性などに応じた多様な学習などであり、各学校において適切に定めることになっている。その際、生徒の負担過重となることのないようにしなければならないとされている。

ちなみに、表1「新学習指導要領の選択教科」に示したように、これまでは、各選択教科の授業時数は年間35単位時間の範囲内で各学校が適切に定めることとされていたが、新学習指導要領により年間70単位時間内に変更された。この変更に伴い、これまで以上に、選択教科は、各学校独自のカリキュラムを組めることが可能となる。しかしながら、学校週5日制の実施、総合学習の導入などにより、各教科の授業時数が削減されており、時間割編成はいろいろな点を考慮し、慎重に検討しなくてはならない。

表1 新学習指導要領の選択教科

学年	選択教科などに充てる授業時数	履修教科数	選択教科の種類	各選択教科の授業時数
第1学年	0～30	※	国語，数学，理科，社会，音楽，美術，保健体育，技術・家庭，外国語，その他，特に必要な教科	年間30単位時間内で各学校が定める
第2学年	50～85	1以上		年間70単位時間内で各学校が定める
第3学年	105～165	2以上		

※ちなみに第1学年については、生徒に選択教科を履修させるかどうかは、各学校が判断することになっている。

3. 選択教科英語における学習活動

次に、選択教科英語の実践例としては堀内一夫の示した実践例が参考になる。

その、特徴的な実践事例をいくつか紹介したいと思う。

○実践事例1

・「外国人に話しかけよう」の実践例では、生徒がALTやその他の外国人にインタビューをして国際理解の学習につなげていく。

○実践事例2

・「オリジナル物語を作り、絵本にしよう」の実践例では自分達のアイディアでオリジナルの絵本を作成する。

○実践事例3

・「Making a Town Guide」の実践例では英語で自分達の地域紹介を行う活動を取り入れ、自分たちの住んでいる地域の英語版ガイドブック作りなどを行っていく。

○実践事例4

・「英字新聞を作ろう」の実践例では身近なトピックを集めて、中学生にもできる英字新聞を発行する学習活動を仕組んでいる。

○実践事例5

・「選択英語クラスでホームページを作成しよう！」の実践例では、生徒自身が自分達のクラスのホームページ作りに挑戦するなどの活動がある。

いずれの実践事例も、生徒の自主的な活動を中心に据えたとても興味深い学習内容となっている。

また、この他にも、選択教科英語で取り上げることのできる題材は、身近な生活場面の中からも数多く発見できるであろう。

次に選択英語における評価について触れておきたいと思う。選択教科の評価は、必修教科などの評価とはやや異なる。堀内一夫は、評価について「生徒の良さや可能性に気づかせ、その可能性を引き出す評価であること」が重要であるといった示唆にとんだ指摘をしている。

さらに、「選択教科の評価は、できたかできないかの序列をつけるための評価ではなく、生徒一人一人のよさを積極的に評価し、豊かな自己実現に役立つ評価でなければならない。」としている。このことから選択教科は、生徒一人一人の努力が反映されるような評価が望ましいと考ええる。その方法については生徒相互の学び合いの様子や問題意識などを知ることができる相互評価や、生徒自身の満足度などや、「関心・意欲・態度」を知る自己評価などが重要である。

4. 英語の苦手な生徒たち

中学校の学校現場で、日々、多くの生徒と接し、英語を教えているといろいろなことを感じる。

4月の新学期。新入生が元気よく入学してくる。

生徒は、入学当初、胸をわくわくさせて新学期を迎える。ほとんどが、初めて学習することになる英語に（来年度から宜野湾市では小学校における早期英語教育特区が始まるが）興味津々である。1年生の英語に対する学習意欲は、きわめて旺盛である。

最初の頃は、元気よく、歌を歌ったり、ゲームをしたり、単語を発音したり、コーラスリーディングなどを行ったり、実に澁刺としていて、英語を勉強することが本当に楽しくて仕方がないといった感じである。最初はA B Cのアルファベットから学習はスタートする。みんな一生懸命に頑張って勉強する。そんな生徒達も、一学期から二学期、三学期と学習が進むにつれて、英語を敬遠する生徒が出てくる。2年生、3年生と時間が経過するうちには英語が嫌いになっていく生徒がどんどん増えていくのである。

1年生の頃には、授業中、とてもまじめに発音していた生徒が、ほとんど発音しなくなったり、学習活動に消極的になっていたりすることがある。教師としてこのような生徒たちを教えていて、これほど辛いことはない。生徒たちの英語へのモチベーションが低下していくのである。それはなぜなのだろうか。多くの英語教師たちが、頭を悩ませている。そこで、私は、一つのことに着目した。英語が嫌いな生徒たちの多くは、自分は英語が苦手である、とか、自分は英語ができない、という固定観念をもっている。

中学に入学し、時間がたつにつれて、彼らは一つの否定的なイメージを築きあげている場合が多いのである。そのネガティブなイメージとは自分は英語ができない、自分は英語が苦手だ、英語はおもしろくないといった感情であり、そのことが英語を学習する上で、大きな障害となっているのである。

そこで、英語に対する**ポジティブ**なイメージを彼らに植え付けることから出発する必要がある。少しずつ、少しずつ、根気よく根気よく、英語を通して楽しさを味わわせることが大切である。

この先入観を取り除くことがまず重要である。

英語学習に対するネガティブなイメージ

英語の学習はむずかしい

自分にはできるはずがない

英語の勉強方法がわからない

自分にはひりだ

あきらめ

英語恐怖症

英語コンプレックス

私は英語ができない

英語ざらい

成績の低下

英語アレルギー

英語学習からの逃避

学習意欲の低下

英語学習に対するネガティブ
なイメージを取り除くこと

英語学習のポジティブなイメージ

英語を勉強するのは
楽しい！

夢がひろがる

英語の勉強をすると
とってもトクをする！

大きな可能性が広がる！！

外国人と話ができる！

世界中の人たちとお友達になれる！

外国に留学ができる！

世界中の情報をインターネットを通じて
手に入れることができる

お金持ちになるチャンスが
広がる！

選択学習を通して英語を学ぶ楽しさを味わい、英語に対するポジティブなイメージを植えつけることは、十分可能であると考ええる。

5. インプット理論について

選択学習のメリットを生かし、生徒たちが興味・関心をもてる教材を選ぶ。その教材は、対象となる生徒たちの実態に応じたもの、発達段階に応じたものでなければならない。

では、どうすれば子供たちに意欲的に学習に取り組ませることができるのだろうか？

どうすれば、子供たちの英語力を高めることができるのだろうか？どうすれば、子供たちに、楽しく学習に取り組ませることができるのだろうか？

クラッシュンのインプット理論によれば、理解可能なインプットを学習者に大量に浴びせることにより、学習者は、言語能力を高めていくのである。その際に問題となるのは、情意フィルターである。もし、学習者に、学習を拒む姿勢があれば、そこに、

心理的なバリアーができてしまい、学習者は、理解可能なインプットを受け入れにくくなってしまうのである。

そこで、私は、学習にグループアクティビティ (Group activity) を導入することにより、情意フィルターが低くなり、生徒たちにより変化があらわれると考える。グループ内での共同作業を通して学ぶことによって、一人一人に連帯意識がめばえ、メンバーの一員であるという安心感が生まれる。みなそれぞれやるべき作業があり、一人一人には責任感がある。彼らは一つの目的 (学習活動) に向かって努力することができるのである。

ここで前述のインプット理論と情意フィルターについて触れてみたい。

スティーブン・クラッシュェンは、人が母国語を自然に身につける場合、これを習得 (Acquisition) とよび、母国語以外の言葉を意識的に学ぶ場合、これを学習 (Learning) とよんで、両者を区別した。

(1) インプット理論

私たちの言語能力を発達させるインプットとは、現在の私たちの能力より、少し上のレベルの言語の材料に接し、インプットを行うことである。

現在の言語能力を、 i とするならば、その少し上のレベルのインプット ($i+1$) のインプットを理解することにより、私たちの言語能力は発達する。

その際のインプットの条件は、まず一つ目に「理解可能なインプットであること、二つ目に興味深く、しかも自然なものであること、三つ目に文法項目中心に配列されたものでないこと四つ目に十分な量であるべきこと」としている。

(2) 情意フィルター仮説

Dulay and Burt⁽¹⁾ (1977) は、形式的なまたは自然な言語環境でひとがどれくらい言語を学ぶかを定めるフィルターが存在すると考え、情意フィルター説を提案した。

ちなみに、学習に際して理想的な態度の人は情意フィルターが低いといわれる。フィルターが低いということはインプットを受けやすく、学習が容易におこなわれることになる。

さらに、クラッシュェン⁽²⁾ は、「情意フィルターは、インプットを言語習得のために使わせない働きをする。理想的な学習態度のものは情意フィルターが低いと仮定する。」

そこで、インプット理論により、理解可能なインプットの授業を行い、グループアクティビティーを通して学習することによって学習者の情意フィルターを低くし、サイドリーダーなどを使って教材を工夫することによって学習する楽しさを実感でき、学習意欲が高まり、効果的に学べると考える。

(1) 『バイリンガル教育と第二言語習得』 p27.

(2) 『ナチュラルアプローチ』 p45

選択英語学習におけるグループアクティビティーを通して

英語に慣れる

英語に親しむ

英語学習に対する意識に変化を起
こさせる

英語に対するポジティブなイメージをもた
せる

グループアクティビティーにより
仲間意識をもたせる

グループの一人一人に役割を与え責任を持たせ
る

お互いに協力して学習することを
学ばせる

やればできることを
実感させる

自信をもたせる

英語学習の楽しさ
を味わう

学習意欲の向上

知的好奇心を育てる

授業にいたるまでの作業の手順

- 1 サイドリーダーテキスト（今回はペンギンブックス）をスキャナーを用いて画像を写しとる。
- 2 マイクロソフト社製のソフトウェア パワーポイントでその画像を編集，加工する。
- 3 テキストの1ページの中の画像の英字部分は消去し画像のみを残す。
- 4 パワーポイントで本文のページを順序よくならべる。
- 5 テキストと同じ画像，本文を写し取りB4版のファイルにつづる。
（1ページで実際のテキストの2ページ分にする。）
- 6 生徒に配布する
- 7 生徒たちは各グループでそれぞれ自分の読む箇所を決めて練習する
（発音のわからない単語をしらべて確認し練習する）

授業の実践

- 1 コンピュータから液晶プロジェクターで画像を大型ホワイトスクリーンに映し出す。
- 2 朗読をするグループの生徒たちは，大型ホワイトスクリーンをみながら，自分たちのストーリーを読む。
- 3 他の生徒たちは，大型ホワイトスクリーンをちょうど大型の紙芝居を見るように見ながら，話を聞く。
- 4 メモをとる。ストーリーの大意をつかむ。
- 5 教師から生徒へ発問。ワークシートの問題を解く。

VI 実践事例

選択英語科学習指導案

日時 平成15年9月9日(月) 1校時

対象 宜野湾市立嘉数中学校

3年生選択英語クラスG

授業者 伊禮聰

1 題材 Penguin Readers, Hello Readers その他

2 題材設定の理由

(1) 生徒観

本校3年生選択英語クラスGは、男子12名、女子24名で、おだやかで明るく、素直な生徒たちが多いクラスである。授業のなかで、積極的に発言しようとする姿勢は、それほどみうけられないが、英語への興味、関心は高く、英語好きな生徒が集まってきている。生徒は、英語学習の必要性をよく認識しており、クラス全体の学習態度もほぼ良好で、落ち着いた雰囲気の中で授業をすすめることができる。

(2) 教材観

ペンギンリーダーズ、ハローリーダーズなどは、英語学習者のために書かれたショートストーリーのシリーズであり、英語学習のビギナーから読むことができるように作られている。また、各段階にわけて、覚えるべき語彙を増やし、少しずつレベルアップしながら学習できるように工夫されている。また、読みやすく、わかりやすい平易な文章で書かれていて、挿絵としてカラーの美しいイラストがあり、読者は想像力をふくらませながら、楽しく読むことができる。

(3) 指導観

私たちの日常生活の中で使用される単語、熟語は、そのほとんどが、やさしい語彙が中心である。限られたやさしい単語、語彙を使って、いろいろなことを表現することが十分に可能であり、やさしい単語を使用することで、ナマの、生き生きとした表現ができるのである。本来、中学3年生ともなれば、1,2年生のときに学習した内容で、多くのことを表現できる力を持っている。しかしながら、生徒は、自分たちが英語を読めない、話せないと思い込んでしまっている。そのため、生徒のほとんどが、英語学習とい

えば、教科書だけの勉強になりがちである。生徒は、英語の「サイドリーダー」といわれる短編の読み物に触れた経験が非常に少なく、また、英字新聞や英語の雑誌、コミックスなども読む機会に恵まれていないのが実情である。彼等は、「英語の文章を読んで楽しんだ」という経験がほとんどないのである。自分たちがこれまでに学習した英語を使って、いろいろな情報を得たり、何かを発見したり、物語が読めたり、新聞や雑誌の記事を読み、楽しむことができる！ということは大きな喜びである。このことを生徒に気づかせることは、生徒の学習意欲をおおいに高め、楽しみながら、主体的に英語を学習することにつながるのではないだろうか。その、一つのきっかけとして今回は、英語のやさしいショートストーリーのサイドリーダーを教材として用いて学習することにした。

3 本時の目標

- ①各グループ一人一人が、楽しく、お互いに協力してストーリーを読むことができる。
- ②他のグループのストーリーをきちんとよく聴くことができる。
- ③発表された物語の大意と、起承転結をつかむことができる。
- ④Wh question について学ぶ
- ⑤Wh question とその答えについて学ぶ

4 指導計画

時数	指導内容
1	英語学習のサイドリーダーについての説明
2 (本時)	Short story を読む① リスニング Wh Question について Q and A①
3	Short story を読む② リスニング リスニング Wh Question について Q and A②
4	Short story を読む③ リスニング Wh Question について Q and A③
5	Short story を読む④ リスニング Wh Question について Q and A③まとめ

5 準備

- ・スクリーン ・液晶プロジェクター ・コンピュータ ・ワークシート
- ・センテンスボード ・OHC

6 本時の展開

過 程	教師の活動	生徒の学習活動	留意点
導入 3 分	Greetings Hello everyone. How are you?	Greetings グループに分かれて座る	リラックス できるように 雰囲気づくりに配慮 する
展開 4 4 分	本時の説明 今日のめあてを確認 練習開始の合図をする グループごとに練習状況を チェックする ・わからない単語はないか ・予習はできているか ・Power Point のスライド ショー機能を使って絵を映 す 各グループの活動に気を配 りながら適切な支援をする ・声の大きさ ・読むスピード ・発音 ・チームワーク ・各チームのスキルをみる 教材と ワークシートを配布する	各グループであらかじめ話し合 い、それぞれ分担したページを確 認する 各グループで読みの練習開始 グループごとに ショートストーリーを読む 注意深く聴く メモをとる ワークシートに記入する	しっかりと 声を出して 練習 時間配分に 注意 ・パワーポ イント ・OHC ・液晶プロ ジェクター ・静かに聴 けるように 注意する ・マイク ・スピーカ ー
まとめ 3 分	Q and A について確認 自己評価表を配布 本時についてのまとめ 次回の予告	自己評価	各疑問文の 特長に気づ かせる 今日の授業 を振り返ら せる

7 評価

グループ名 () 学年 組 番 氏名

次の質問に記号で答えなさい

よくできた ◎ まあまあできた ○ あまりできなかった △ できなかった ×

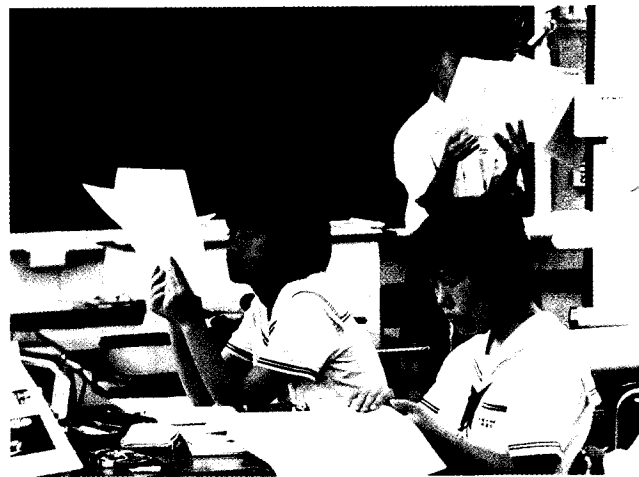
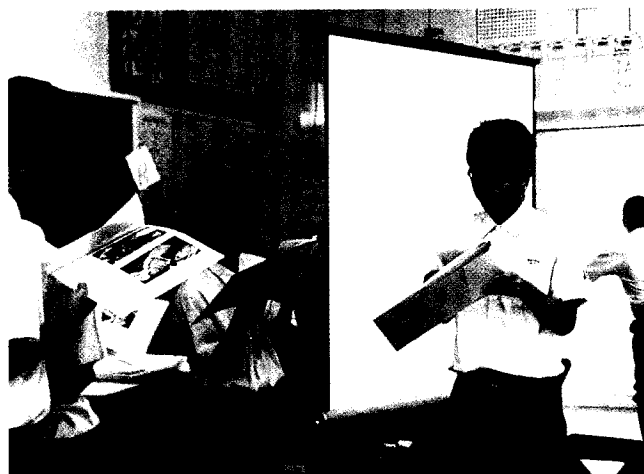
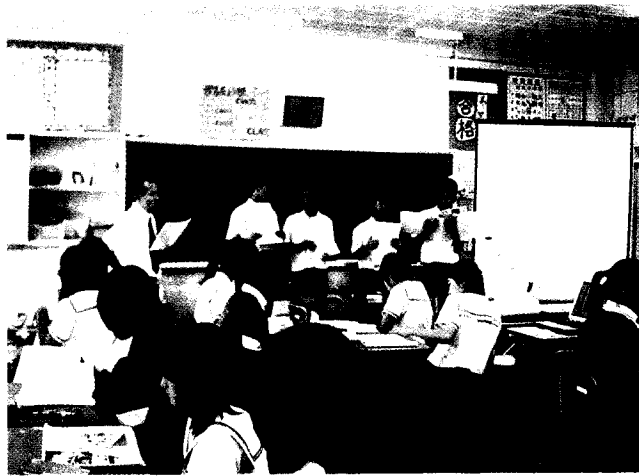
- 1 きのは、読みの練習をしましたか？
()
- 2 自分のグループのストーリーを全部読みましたか？
()
- 3 わからない単語は調べましたか？
()
- 4 発表したグループのストーリーを注意深く聴くことができましたか？
()
- 5 グループの仲間と協力して読むことができましたか？
()
- 6 ストーリーの大意をつかむことができましたか？
()
- 7 グループの仲間と協力して読むことができましたか？
()
- 8 楽しく学ぶことができましたか？
()
- 9 今日の授業でのストーリーはむずかしかったと思いますか？あてはまるものに○をして下さい！

- 1 むずかしい 2 適当だ 3 やさしい

検証授業の様子

2003年9月9日(火)

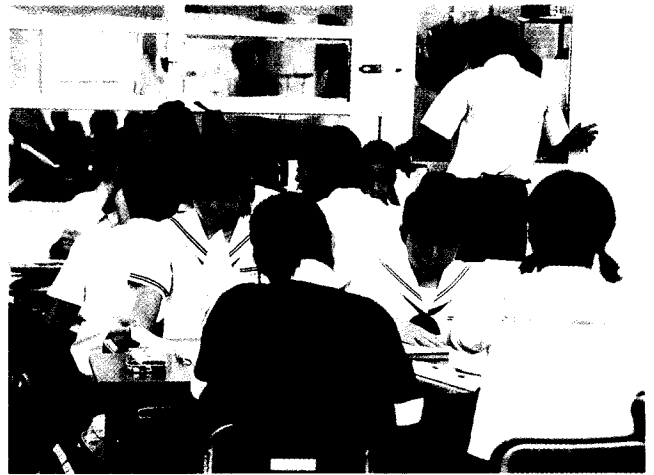
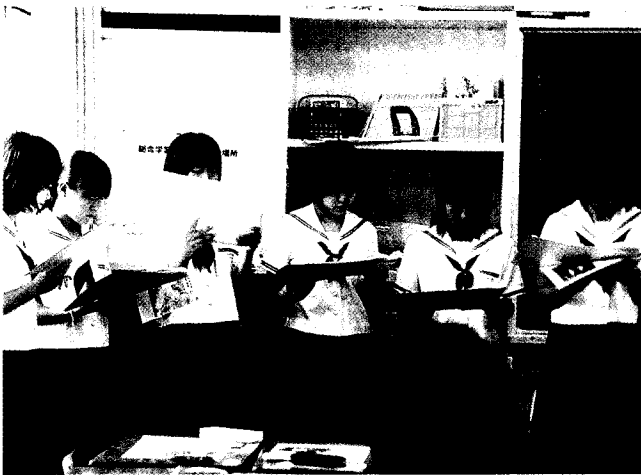
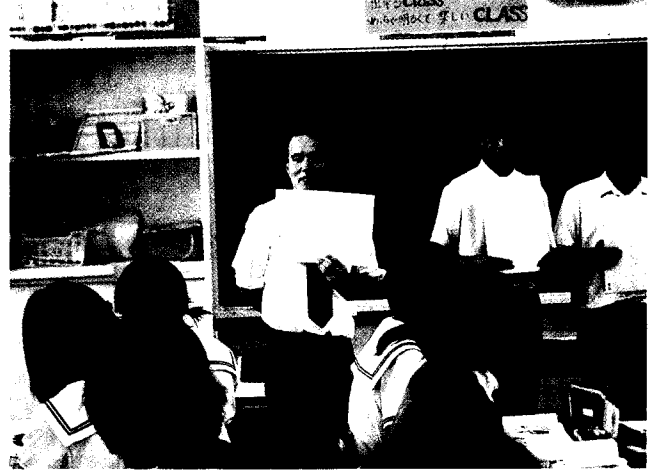
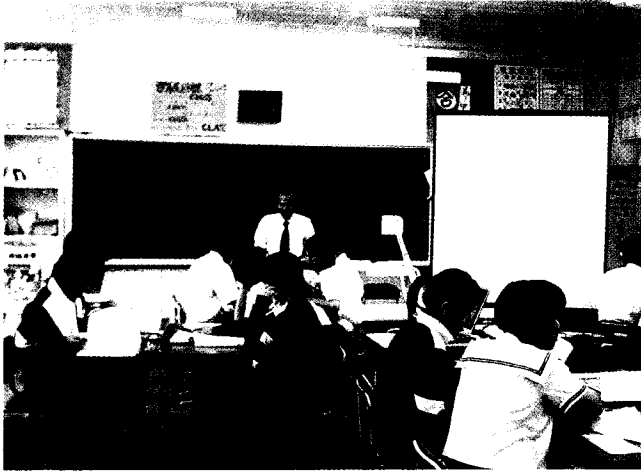
みんなよくがんばったね！



検証授業の様子

2003年9月9日(火)

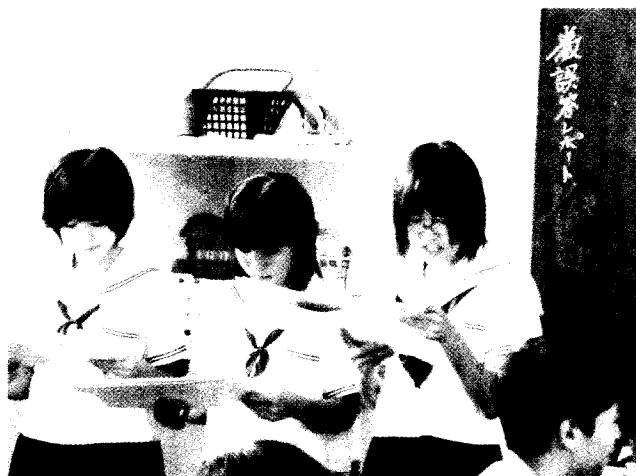
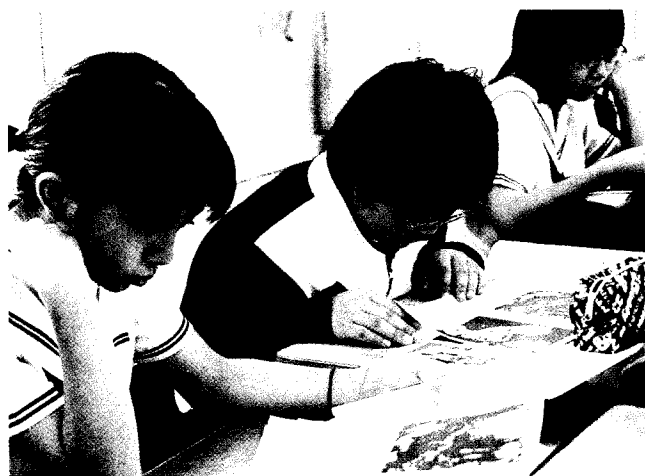
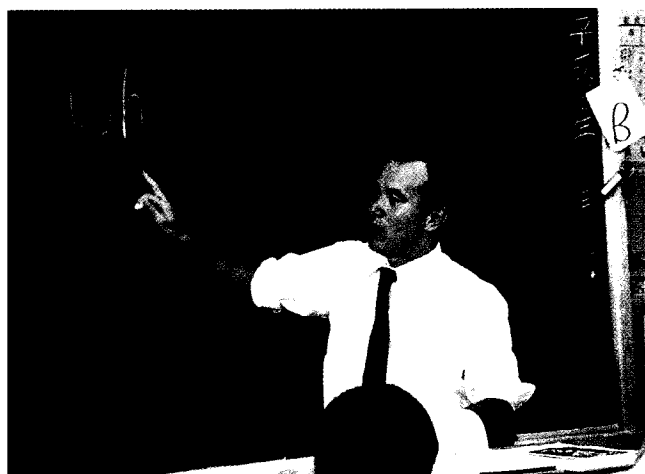
ミスターもがんばりました・・・



検証授業の様子

2003年9月9日(火)

みんなたまには？真剣です・・・



8 授業反省会

(1) 授業者の反省

- ・研究授業の前に、生徒たちと触れ合う機会が少なくて残念だった。もっとレポート作りをしたかった。
- ・授業から、遠ざかっていた。授業中の生徒とのやりとりや、発問のタイミング、授業中の教師としてのカンのようなものがうまく働かなかった。
- ・興味をそそるカラーの挿絵を探すのに苦労した。
- ・今回、1時間で二つの話を学習した。あまり、欲張らないでもっと、じっくりと、時間をかけて一つ一つの話の学習していても良かった。
- ・読む練習が不足していた。
 - ・生徒がマイクを使いたがらなかったが使わせたほうが良かった。
- ・1000語、2000語程度の文では、短編のおもしろみが出ないので、あえてこの長さのストーリーを選んだ。文を選んだ。「読みきった」満足感を味わせたかった。
- ・当初の計画と違って、時間の配分がうまくいかなかった。
- ・発話したがない生徒に声を出させたいという願いがあった。
- ・英語学習のカラを破るきっかけにしたかった。

(2) 授業分析、感想、質疑応答

- ・教科書（文法）から離れた授業は生徒を引きつけるのではないか。
- ・生徒が落ち着いていた。本時の目標の③にある物語の大意と起承転結についてはかいつまんだ解説が必要だったのでは？

- ・味わい深い人柄が出ていた。
- ・導入では題名から「どんな内容だと思う」と生徒に投げかけてイメージを、ふくらませたらどうか？
- ・パワーポイントのノートの部分に字幕を入れてもよかったかもしれない。
- ・目標を絞ったほうが良かった。
- ・全グループに発表させてほしかった。
- ・授業者の言葉遣いが悪い点があった。
- ・場の工夫は配慮が見られた。また、教育機器の活用は授業に華を添えた。
- ・発表のときに、生徒に要約させてもよかった。（発表の工夫）
 - ・分からなかった子を把握して支援につなげる。
- ・授業の仮説を作れば目標が明確化されていたと思う。
- ・グループごとにそれぞれ異なった資料を配布し、生徒はそれを練習していたが、一つの話に統一して、みんなが共通のテキストで学習してもよかったのではないか。

(3) 指導助言（新垣治男指導主事）

- ・本物を読ませたい、聴かせたいのは・・・英語教師の願望である。
 - （目的を与える・・・主人公は誰？何をしたんだろう
 - （何度でも読ませることができる）
- ・ストーリーの登場人物をカードで確認してもよかった。
- ・図書館指導の充実
- ・単元計画にもっと時間をかけて練ったほうがよかったのではないか？
- ・例 最初でたっぶり読ませて（3時間ほど）後半は、内容について考える・・・等。
- ・メモを取る。ワークシート（登場人物等のつたもの）を用意してもよい。

- ・オリエンテーションの工夫
- ・評価はどうするのか？生徒の相互評価もあると、生徒はもっと集中するかもしれない。

(4) 生徒の研究授業の感想

- 僕たちのグループは、1 番最初に読んだので、とても緊張しました。でも練習した成果があつて自分なりにはよくできたと思います。グループでも、単語の読み方を教えあつたりしてとても楽しかったです。こんな英語の本を読む機会はたまにしかないのでとてもよかったと思います。自分の読んだ本の内容は理解できたけど、違うグループのは、分からなかったのだから、次からは、リスニングでも内容を理解できるようにしたいです。英語は将来使うと思うので、これから英語の本をよく読んだりして、英語を身につけていきたいです。
- 2 回も読まされてつかれた。とても緊張してたおれそうだった。自分の番にくるときんちょうしてなにもはなせなくなった。
- 自分のグループは、読んでいないけど、他のグループの発表を聞いていて、同級生なのに、きれいな発音で読める人は本当にすごいと思うし、自分で本を読んで楽しいです。だから、選択の授業でたくさんの英語を読むきっかけができたので良かったです。もっと、たくさん、英語読めるようになりたいし、後、英語を聞いて、意味が理解できるようになりたいです。今日の授業はよんでる人の話を聞いてあんまり、理解できなかったけど、紙を見ながらだった

らよくわかりました。

- 他のグループの発表よかったです。発音とかもうらやましい、と思いました。
- 今日、全部のグループが発表すると思っていたのに、2 グループしかやらなかったから、ちょっと練習した意味ないと思った。発表したグループを聞いて、うまかったけど声が小さかったりして聞こえづらかった。でも、スクリーンの絵を見ていただいた内容は分かった。
- 発表しなかったけど、英語の本を初めて読んだので楽しかった。いつか、また、こういうことをしたいです。
- どのグループも、すごく発音が良くて、うらやましかった。多分、みんないっぱい練習したんだなあ。と思った。だから、私もいっぱい英語を読んで、すごく発音が上手になりたいです。
- 今日、研究授業で、みんなの前でショートストーリーを発表してめっちゃめっちゃ緊張しました。一生懸命、練習しました。途中、つかえたり、声が小さかったけど、頑張ったよ。また、やりたいです。

VI 成果と課題

(1) 成果

- ・ほとんどの生徒たちに発話をさせることができた。
- ・普段はあまり発音しない生徒たちも声を出して練習する姿がみられた。
- ・ストーリーの大意を把握することができた。
- ・各グループのメンバーたちが協力して練習することができた。

- ・生徒に自分たちの英語の力で読める英語の本があることを知らせることにより、彼らに自信をつけさせることができた。
- ・選択英語の授業を楽しませることができた。

(2) 課題

- ・生徒の実態にあった教材作りが必要である。
- ・授業の時間内で収まるような適当な長さ、適当な分量、適当なレベルの教材が必要である。
- ・グループを作る際にグループの構成メンバーをどうすべきか検討する必要がある。たとえば、現在のような男女別々のグループ分けだけではなく、男女混合にしたり、英語の力のある生徒、そうでない生徒などの組み合わせなど。
- ・今年度は選択英語の時間が1週間に1時間しかないため、スケジュールを考える必要がある。
- ・練習の時間が十分に取れなかった。
- ・今後、やさしい英語を使った雑誌、新聞の記事などを教材化することにチャレンジし、授業の中で生かしていきたい。

おわりに

気がつけば6ヶ月！信じられないような気持ちです。何か、名残惜しいような気持ちです。このような機会を与えた下さった仲本賢輝校長先生はじめ、宮城勇孝所長、新垣英司研修係長ほんとうにありがとうございました。また、ご多忙の中、親切丁寧にご指導をいただきました新垣治男指導主

事にも心から感謝申し上げます。教育研究所並びに適応指導教室、青少年教育相談室のスタッフの皆さん、どうもありがとうございました。私に、研修をすすめてくださいました元嘉数中学校教頭の上江洲先生どうもありがとうございました。これからも、この宜野湾市教育研究所が、素晴らしい研修の場として発展することをいつも祈っています。

《主な引用文献と参考文献》

- ・堀内一夫 編『選択教科の新展開』明治図書,1999。
- ・小池生夫 S L A研究会 編『第二言語取得研究に基づく最新の英語教育』大修館書店,1994。
- ・コリン・ベーカー 岡秀夫 編『バイリンガル教育と第二言語習得』大修館書店,1996。
- ・宮原 修 編『新学習指導要領ハンドブック』教育開発研究所,1999。
- ・渡辺時夫 他 編『インプット理論の授業 英語教育の転換点をさぐる』三省堂,1988。
- ・ステイーブン D.クラッシュェン トレイシー D.テレル 編『ナチュラルアプローチ』大修館書店,1986。
- ・平田和人 編『新中学校教育課程講座 外国語』ぎょうせい,1999。
- ・岡秀夫 H・ジョンソン K・ジョンソン 編『外国語教育学大辞典』大修館書店,1999。